

ちいこ



足羽学園前にあるバス停

バス停からは、一般の路線バスを利用して通学しています。



足羽学園には、日中は校区内の酒生小学校へ通う方が、特別支援学校へ通う方がいらつしやいます。
今回は、小学校の支援学級に通う児童の登下校のエピソードや学校での様子、交流活動などを通して、地域に支えられながら支援を続けている足羽学園の取り組みをご紹介します。

酒生小学校へ通う子どもたち

毎朝、足羽学園の前にある宿布のバス停まで職員と一緒に行き、そこからは児童たちだけでバスに乗り、小学校近くのバス停で降りて、そこから歩いて登校しています。学校が終わわり、園に帰ってきたら、宿題をしたり職員と連絡物の確認をしたり、夕食時には食器洗いやお米を洗うお手伝いをするなど、一般家庭と変わらない生活をしています。

きれいに
ごしごし☆



食器洗いのお手伝いの様子

地域の支援あつこの登下校

毎日通う中で登校時間のバスに間に合わないこともありました。
食事を終えて、歯磨きが済んでもテレビが見えなかったようで、バスの時間が迫っていたので身支度を促すと、テレビが見えなかった気持ちが強く、服を脱ぎだしてしまいました。話をして制服に着替えて、バス停に向かいました。が間に合わず、車で送っていただくことができました。

また、下校の際に学校の疲れからかバスの中で寝てしまったようで、バスを乗り過ぎてしまいうこともありました。バス停で待っていた職員も驚き、バス会社に連絡を入れましたが、同じタイミングで運転手の方も気づいて、一つ先のバス停で待つてくださっていました。職員が車でお迎えにいったのですが、運転手さんや同乗していた乗客のみなさんのおかげで早めの対応ができました。

生きる



ただいまー(^^)♪



このように同じバス停で降りる近所の方から「いつも元気でいいね、こっちまでうれしくなるわ」「またあしたね」などと声を掛けてくださったり、バスの運転手の方やその時々で同乗した地域の方々が、困ったときに声をかけてくださったりするおかげで、問題なく登下校できています。本当に地域の支えあつての登下校だと日々感謝の気持ちでいっぱいです。

ともに



坂を上って足羽学園へ



酒生小学校との交流

酒生小学校とは、毎年4年生のみなさんと交流を行っています。この交流の目的は、障がいのある方への理解を深めると共に、福祉教育の一端を担うことです。

事前学習として、交流の前に足羽学園の職員が酒生小学校に出向き「足羽学園とは？」「障がいとは？」について出前授業を行います。どのようなことをして交流をするのかは酒生小学校の4年生のみなさんと先生で考えてくださり、当日の進行なども児童の方が中心に進めてくださいます。

そして交流当日は児童のみなさんや先生方が足羽学園の子どもたちを温かく迎え入れてくださり、毎年楽しい交流になっています。



まとめ

長年の取り組みが続いていることで、足羽学園へ実習に来られた学生さんが「小学校の時に交流したんです」と話して下さる姿を見ると地域とのつながりを感じ、うれしくなります。

子どもたちにとっても地域の方々に声を掛けていただけることや、地域の子どもたちとかかわる機会は大切で、大きな喜びにつながっています。これからも子どもたちや職員は、地域の人とのつながりを大切にして地域と共に歩んでいきたいと思えます。

足羽学園

サブゼネラルマネージャー

岡崎 ゆかり

地域と共に

